

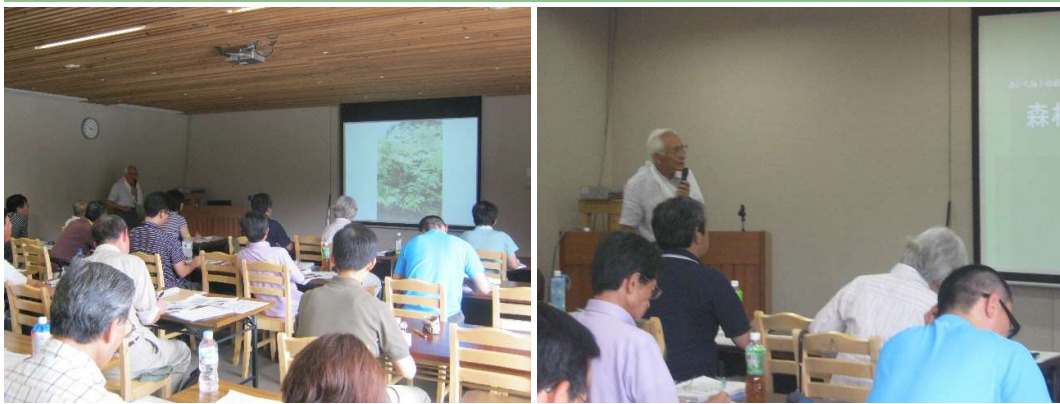
# 環境と人間 I

森林・里山と人間

日時：平成24年7月29日（日） 10:00～12:00

講師：只木 良也（名古屋大学名誉教授・国民森林会議会長）

## 概況



森林・里山と人間

講師：只木 良也

世界の森林から日本の森林、日本の森林から愛知の森林へという視点から講義が始まった。森林は、降水と気温によって育まれる。森林が成立する条件が整っている地域は、陸地面積の30%に過ぎない。日本は、恵まれた地域であるといえる。愛知の森林は、気温から暖温帯照葉樹林が成立する気候である。基本的にはシイ・カシ林となる。

濃尾平野の豊かさは、木曽川上流の恵みによるところが大きい。木曽川の豊かな水が農業、工業を支えている。また、木曽ヒノキが、この地域の財の基礎を築き、技術と文化を育んだ。

一般的に里山は、農用林として利用されてきた森林である。利用されなくなったことで、マツ枯れやカシナガの被害が発生した。不要、放棄された所だからこそ里山は、全国的に開発の対象となったといえる。里山を守るには、新たな利用方法を見つける必要がある。